

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	恵庭岳北側 （えにわだけきたがわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 石狩森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は千歳市西部に位置し、平成26年9月10日から11日にかけての発達した低気圧に伴う集中豪雨（最大24時間雨量280mm、最大1時間雨量69.5mm）により、恵庭岳火口周辺を発生源とする土石流災害が発生し流出した土石及び土砂は国道を長期間通行止め、下流部に存する国定公園内の湖にまで到達して湖に土石が流入するなど、住民生活や観光産業への大きな影響を与えた箇所である。</p> <p>緊急対策は災害事業により完了しているが、下流側で流下する河道の一部が確保されていない箇所があり、今後の降雨などにより土石流が発生し国道へ被害を与える恐れがあることから、流路工で河道を確保し山地災害の防止を図るため計画する。</p> <p>・主な事業内容 流路工 666m ・主な保全対象 国道 150m ・総事業費 20,000千円</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	281,201千円	
	総 費 用（C）	19,230千円	
	分析結果（B/C）	14.62	
評価結果	<p>・必要性 降雨等による土石流等が発生し国道へ被害を与えるおそれがあることから、流路工で河道を確保する対策工を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画に当たっては、施工地の条件から国有地内での対策工を行う必要があり、現地の状況に応じた最も効果的な工種、工法が検討されており費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土石流等による被害の予防効果が期待され、国道を保全することが出来ることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成32年度（4年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	白井川 （しらいかわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 石狩森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、札幌市南区定山溪に位置し、白井川の本流及び支流からなる多量な流量のある流域である。上流部には昭和41年にコンクリート谷止工1基が施工されているが、すでに満砂状態にあり、未だ堆積している不安定土砂が流出し、流量もあることから林道や溪岸に影響を与えているため汚濁等の被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、降雨や降雪により林道決壊や溪岸侵食により下流部にある水道浄水施設へ影響を与えるため、土砂流出防の防止対策を実施するため計画したものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 溪間工 6基 ・ 主な保全対象 林道 200m、水道浄水施設 ・ 総事業費 130,000千円 		
費用対効果分析	総 便 益（B）	434,915千円	
	総 費 用（C）	119,032千円	
	分析結果（B/C）	3.65	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 再度、堆積土砂の流出により浄水場施設へ被害を与えるおそれがあることから土砂流出防止の観点から当該事業を実施する必要性が認められる。 ・ 効率性 対策の計画に当たっては、現地の状況に応じた最も効果的且つ効率的な工種、工法が検討されており費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。 ・ 有効性 当該事業の実施により、土砂流出の予防効果が図られ、浄水場施設への保全することが出来ることから事業の有効性が認められる。 		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成30年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	真谷地 （まやち） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、夕張市真谷地に位置し、石炭露天坑跡地の山腹斜面に発生した侵食崩壊地で、降雨の都度、山腹法面が流水により侵食されており、山腹斜面下部には流出土砂が堆積している。</p> <p>今後の降雨等による侵食防止と水源涵養機能の向上を目的とし、山腹斜面の早期復旧及び安定を図るため山腹工を計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 3.06ha、資材運搬路 1,548m ・主な保全対象 道道 100m、事業所 1棟 ・総事業費 58,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	229,438千円	
	総費用（C）	53,922千円	
	分析結果（B/C）	4.25	
評価結果	<p>・必要性 この山腹崩壊は、石炭露天坑跡地の盛土斜面が雨水により侵食を受け、降雨の都度、侵食が進行し崩壊が拡大しており、その崩壊土砂が山腹斜面の下部に堆積している。このまま放置しておくと、更に斜面侵食が進行するとともに拡大崩壊が発生し、崩壊土砂が流出する危険性が高いことから、土砂災害の防止と保安林機能の向上を図るため当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、崩壊面の勾配、地形、地質などの状況を考慮し、現地の実態に応じた最も効率的かつ効果的な工種・工法を検討することとし、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、山腹斜面の侵食防止及び崩壊地の拡大を抑制する。また、土砂の流出を防止し下流の道道等を保全することが出来ることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成30年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	水島沢 （みずしまざわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、芦別市旭町に位置し、市道沿いの山腹斜面に発生した崩壊地で、当該市道敷山側法面を含む斜面に地すべり性の崩壊が発生しており、崩壊斜面及び下部には崩壊土砂と押し出された倒木が堆積している。</p> <p>今後の降雨等による土砂災害の防止と水源涵養機能の向上を目的とし、崩壊斜面の早期復旧及び安定を図るため山腹工を計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.25ha ・主な保全対象 市道 150m ・総事業費 34,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	42,228千円	
	総費用（C）	31,584千円	
	分析結果（B/C）	1.34	
評価結果	<p>・必要性 この山腹崩壊は、石炭露天坑跡地の盛土内に8月の台風による局地的豪雨が浸透し、パイピングや間隙水圧の上昇により崩壊が発生し、その崩壊土砂と倒木が崩壊斜面と市道沿いに堆積している。このまま放置しておくこと、拡大崩壊が発生し再び土砂等が流出する危険性が高いことから、土砂災害の防止と保安林機能の向上を図るため当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、崩壊面の勾配、地形、地質などの状況を考慮し、現地の実態に応じた最も効率的かつ効果的な工種・工法を検討することとし、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、崩壊地の拡大を抑制する。また、土砂の流出を防止し直下の市道を保全することが出来ることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	新太刀別沢 （にたちべつさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署 北空知支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は沼田町北部に位置し、溪流沿いに山腹崩壊箇所が散在しているほか溪流の荒廃があり不安定土砂の堆積が見られる。下流には水道水・農業用水を目的とした沼田ダムがあり、今後の集中豪雨等により流木・土砂が流出し下流に被害を与える恐れがある。</p> <p>このため、当該事業により土砂流出を抑制し、下流の保全を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基 ・主な保全対象 林道 700m ・総事業費 25,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	177,719千円	
	総費用（C）	24,038千円	
	分析結果（B/C）	7.39	
評価結果	<p>・必要性 山腹崩壊により発生した崩壊土砂は、依然として溪床内に不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により不安定土砂の流出や崩壊地の拡大の恐れがあることから、山地災害防止、土砂流出防止の観点から当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 計画にあたっては、溪床勾配、地形、地質などの状況を考慮し、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、費用以上の効果も期待出来ることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、崩壊地の拡大や溪床内の堆積する不安定土砂の流出が抑制され、直下の林道、道道、多目的ダムを保全することが出来ることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成33年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	相雲内沢 （そううんないさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署 北空知支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は幌加内町北部に位置し、平成28年下旬の集中豪雨により、国有林内の沢より溪岸浸食された土砂が流出し、下流に位置する国道に被害を与えた。溪流内には依然として不安定土砂が堆積しており、今後の集中豪雨や融雪期に再び土砂が流出し下流に被害を与える恐れがある。</p> <p>このため、当該事業により土砂流出を抑制し、下流の保全を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 4基 ・主な保全対象 国道 200m ・総事業費 106,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	346,788千円	
	総費用（C）	93,027千円	
	分析結果（B/C）	3.73	
評価結果	<p>・必要性 浸食崩壊により発生した崩壊土砂は、依然として溪床内に不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により不安定土砂の流出や崩壊地の拡大の恐れがあることから、山地災害防止、土砂流出防止の観点から当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 計画にあたっては、溪床勾配、地形、地質などの状況を考慮し、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、費用以上の効果も期待出来ることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、崩壊地の拡大や溪床内に堆積する不安定土砂の流出が抑制され、直下の国道、農地を保全することが出来ることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	右五の沢 （みぎごのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 日高北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当計画地は、一級河川沙流川の支流の一つであり、北海道物流の幹線である、日勝峠を通過する国道274号の直上に位置している。</p> <p>平成28年8月30日から31日にかけて台風10号の影響により豪雨が発生し、最寄りの観測所では24時間雨量356mm、最大1時間雨量27.0mmを観測した。この豪雨の影響により、日勝峠一帯の山地から多量の土砂と流木が国道274号に流出したほか、国道の路体や付属施設も被害を受けており、現在も国道復旧の目処は立っていない。</p> <p>当計画は、土砂流出箇所の一つであり、多量の土砂と流木が流出した右五の沢において、上流の溪床には依然として多量の不安定土砂が確認されることから、新規に溪間工を施工し、下流国道の保全及び保安林機能の向上を図るため計画したものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 溪間工 2基 ・ 主な保全対象 国道 150m ・ 総事業費 125,000千円 		
費用対効果分析	総便益（B）	270,038千円	
	総費用（C）	113,624千円	
	分析結果（B/C）	2.38	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 当該計画は、台風10号による豪雨の影響により、大量の土砂と流木が流出し被害を与えたほか、溪床に確認されている多量の不安定土砂が今後流出し、下流の国道とその付属施設に被害を及ぼす恐れがあることから、これを防止するため事業を実施する必要性が認められる。 ・ 効率性 対策工の計画に当たっては現地に応じた効率・効果的な工種・工法で検討されており、事業実施に当たってもコスト縮減に努めていることから、効率性は認められる。 ・ 有効性 当該事業の実施により溪床と溪岸の安定が図られ、国道への土砂流出を未然に防ぐことが出来ることから、事業の有効性が認められる。 		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	喜代次沢 （きよじさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 日高北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当計画地は、一級河川沙流川の支流の一つであり、北海道物流の幹線である、日勝峠を通過する国道274号の直上に位置している。</p> <p>平成28年8月30日から31日にかけて台風10号の影響により豪雨が発生し、最寄りの観測所では24時間雨量356mm、最大1時間雨量27.0mmを観測した。この豪雨の影響により、日勝峠一帯の山地から多量の土砂と流木が国道274号に流出したほか、国道の路体や付属施設も被害を受けており、現在も国道復旧の目処は立っていない。</p> <p>当計画実施地である喜代次沢は、土砂流出箇所の一つであり、多量の土砂と流木が流出し、国道横断工を閉塞させた影響から、路体の陥没が発生するなどの被害を与えたほか、上流の溪床には依然として多量の流木と不安定土砂が確認されることから、新規に溪間工を施工し、下流国道へのさらなる被害拡大の防止と保全及び保安林機能の向上を図るため計画したものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な事業内容 溪間工 2基 ・主な保全対象 国道 200m ・総事業費 165,000千円 		
費用対効果分析	総便益（B）	362,044千円	
	総費用（C）	149,896千円	
	分析結果（B/C）	2.42	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 当該計画は、台風10号による豪雨の影響により、大量の土砂と流木が流出し被害を与えたほか、溪床に確認されている多量の不安定土砂が今後流出し、下流の国道とその付属施設に被害を及ぼす恐れがあることから、これを防止するため事業を実施する必要性が認められる。 ・効率性 対策工の計画に当たっては現地に応じた効率・効果的な工種・工法で検討されており、事業実施に当たってもコスト縮減に努めていることから、効率性は認められる。 ・有効性 当該事業の実施により溪床と溪岸の安定が図られ、国道への土砂流出を未然に防ぐことが出来ることから、事業の有効性が認められる。 		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成30年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	オダジマの沢 （おだじまのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 日高南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該溪流は新冠郡新冠町厚別川流域の1つであり、下流域には牧草栽培地や町道が位置している。</p> <p>当該流域では平成15年に発生した豪雨災害により山腹崩壊や溪岸浸食を受け下流域に甚大な土砂災害を与えた経緯もあり、その後も降雨等により下流牧草栽培地への土砂流出を繰り返している状況である。</p> <p>8月23日の台風による出水により、既設ブロック谷止工に局所洗掘が発生し、堤体内部の中詰土砂が流出しダム機能が大幅に低下している状態となっている。</p> <p>溪床内には流木を含む不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により溪岸浸食や山腹崩壊の拡大を伴って下流域へ土砂災害を与える恐れがあり、地元住民や役場からも対策の要望が挙げられているところである。</p> <p>このため、当該事業により不安定土砂の固定と溪岸浸食の防止を図り、水土保持機能の向上と土砂災害防止に資するべく計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基 ・主な保全対象 牧草栽培地 3.00ha、町道 30m ・総事業費 27,500千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	31,866千円	
	総費用（C）	25,519千円	
	分析結果（B/C）	1.25	
評価結果	<p>・必要性 溪床内には降雨等による溪岸浸食や山腹崩壊地が多数存在し、不安定土砂が堆積していることから、今後の降雨等によって下流域に被害を与える可能性が高く、水土保持機能の向上、土砂災害防止の観点から当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が選定されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、溪床内の不安定土砂移動の抑止等が図られ、下流域の牧草栽培地や町道の保全に資することから、当該事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成30年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	取払沢 （ちよるばらいさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 日高南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該溪流は新冠郡新冠町厚別川流域の1つであり、下流域には牧草栽培地や町道が位置している。</p> <p>当該流域では平成15年に発生した豪雨災害により山腹崩壊や溪岸浸食を受け下流域に甚大な土砂災害を与えた経緯もあり、その後も降雨等により下流牧草栽培地への土砂流出を繰り返している状況である。</p> <p>溪床内には流木を含む不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により溪岸浸食や山腹崩壊の拡大を伴って下流域へ土砂災害を与える恐れがあり、地元住民や役場からも対策の要望が挙げられているところである。</p> <p>このため、当該事業により不安定土砂の固定と溪岸浸食の防止を図り、水土保持機能の向上と土砂災害防止に資するべく計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基、山腹工 0.30ha ・主な保全対象 牧草栽培地 5.00ha、町道 30m ・総事業費 49,500千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	61,683千円	
	総費用（C）	45,934千円	
	分析結果（B/C）	1.34	
評価結果	<p>・必要性 溪床内には降雨等による溪岸浸食や山腹崩壊地が多数存在し、不安定土砂が堆積していることから、今後の降雨等によって下流域に被害を与える可能性が高く、水土保持機能の向上、土砂災害防止の観点から当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が選定されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、溪床内の不安定土砂移動の抑止等が図られ、下流域の牧草栽培地や町道の保全に資することから、当該事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	的場の沢 （まとばのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 日高南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該溪流は新冠郡新冠町厚別川流域の1つであり、下流域には軽種馬放牧場や道道71号平取静内線が位置している。</p> <p>当該流域では平成15年に発生した豪雨災害により山腹崩壊や溪岸浸食を受け下流域に甚大な土砂災害を与えた経緯もあり、その後も降雨等により下流放牧場への土砂流出を繰り返している状況である。</p> <p>溪床内には流木を含む不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により溪岸浸食や山腹崩壊の拡大を伴って下流域へ土砂災害を与える恐れがあり、地元住民や役場からも対策の要望が挙げられているところである。</p> <p>このため、当該事業により不安定土砂の固定と溪岸浸食の防止を図り、水土保持機能の向上と土砂災害防止に資するべく計画したものである。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 溪間工 1基 ・ 主な保全対象 道道 100m、農地 0.2ha ・ 総事業費 35,000千円 		
費用対効果分析	総便益（B）	68,201千円	
	総費用（C）	33,653千円	
	分析結果（B/C）	2.03	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 溪床内には降雨等による溪岸浸食や山腹崩壊地が多数存在し、不安定土砂が堆積していることから、今後の降雨等によって下流域に被害を与える可能性が高く、水土保持機能の向上、土砂災害防止の観点から当該事業を実施する必要性が認められる。 ・ 効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法が選定されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。 ・ 有効性 当該事業の実施により、溪床内の不安定土砂移動の抑止等が図られ、下流域の放牧場や道道の保全に資することから、当該事業の有効性が認められる。 		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	近布 （ちかっぶ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、平成26年8月に発生した集中豪雨（173mm/日）により溪岸の浸食・崩壊が発生し、下流の民有地に土砂流出の被害を与えた。 未だ溪流内には多量の不安定土砂が堆積しており、今後の融雪・豪雨等によりこららが流下し直下の道道・水産加工場・人家に被害を及ぼす恐れがあるため、対策工を実施することで溪流内の安定を図り、下流域を保全するため計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 2基 ・主な保全対象 道道 0.10km・水産加工場 5棟 ・総事業費 65,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	435,794千円	
	総費用（C）	59,216千円	
	分析結果（B/C）	7.36	
評価結果	<p>・必要性 溪流内には未だ多量の不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨・融雪等によりこれらが流下する恐れがあることから、山地災害防止・土砂流出防止・民生の安定の観点から当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 現地状況を鑑み、状況に応じた最も効果的かつ効率的な対策計画・工法選定されており、費用以上の効果が期待できることから、効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により溪流内の安定が図られ、土砂流出を防止できることから直下が保全されるので、有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成33年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ヤンベタツブ川 （やんべたつぶがわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は上川町東部石狩川源流域に位置し、平成28年8月の台風7号11号9号の豪雨（150mm/日）により発生した山腹浸食土砂が町道に流出し被害を与えた。山腹が著しく浸食され谷地形と化し不安定土砂が多量に堆積しており、今後の豪雨のたびに町道に土砂被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、当該事業により浸食土砂の流出抑制及び山腹浸食の防止をし、下流の町道等の保全を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 谷止工 3基、大型かご工 20m ・主な保全対象 町道 0.2km ・総事業費 35,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	34,260千円	
	総費用（C）	30,629千円	
	分析結果（B/C）	1.12	
評価結果	<p>・必要性 流出土砂が溪床内に不安定な状態で多量に堆積しており、今後の豪雨等の際に下流の保全対象へ被害を与える恐れがあることから当事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 事業の計画については、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法を検討しており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、不安定土砂の移動防止を図ることが出来ることから有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成33年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	黒岳沢 （くろだけさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は大雪山国立公園内にある北海道内有数の温泉地、層雲峡温泉街（上川町）上流部に位置し、黒岳を源頭部とする荒廃溪流で、昭和30年頃から着手し概成していた治山施行地である。</p> <p>しかし、平成28年8月に台風7号11号9号が次々と襲来し、地盤が緩んでいるところに更なる断続的な豪雨（118mm/日）となり土石流が発生。既設ダム群の効果により温泉街に直接的な被害はなかったものの溪流には多量の土砂が堆積し既設ダムが埋没した。</p> <p>このため、既設ダムの機能が失われた状態となっており、今後の豪雨で堆積土砂が下流へ流出し被害を与える恐れがあることから温泉街の保全を図るため計画したものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な事業内容 溪間工 4基 ・主な保全対象 民家 6戸、事業所等 24棟、国道 500m ・総事業費 163,500千円 		
費用対効果分析	総便益（B）	1,475,049千円	
	総費用（C）	142,977千円	
	分析結果（B/C）	10.32	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性 流出土砂が溪床内に不安定な状態で多量に堆積しており、今後の豪雨等の際に下流の保全対象へ被害を与える恐れがあることから当事業を実施する必要性が認められる。 ・効率性 事業の計画については、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法を検討しており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。 ・有効性 当事業の実施により、不安定土砂の移動防止を図ることが出来ることから有効性が認められる。 		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成33年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	無名沢 （むめいざわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は上川町東部の石北峠にほど近い国道39号線に接する位置にあり、平成28年8月の台風7号11号9号の豪雨（118mm/日）により発生した山腹崩壊土砂及び溪岸浸食土砂が国道に流出し被害を与えた。</p> <p>溪流上流部には崩壊した不安定土砂が堆積し溪岸浸食も著しく、今後の豪雨のたびに国道に土砂被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、当該事業により崩壊土砂の流出抑制及び溪岸浸食の防止をし、下流の国道等の保全を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 4基 ・主な保全対象 国道 0.20km ・総事業費 93,500千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	345,301千円	
	総費用（C）	81,390千円	
	分析結果（B/C）	4.24	
評価結果	<p>・必要性 流出土砂が溪床内に不安定な状態で多量に堆積しており、今後の豪雨等の際に下流の保全対象へ被害を与える恐れがあることから当事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 事業の計画については、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法を検討しており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、不安定土砂の移動防止を図ることが出来ることから有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成33年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	陸満別沢下流 （りくまんべつざわかりゅう） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は上川町東部に位置し、平成28年8月の台風7号11号9号の豪雨（126mm/日）により発生した溪岸浸食土砂がキャンプ場敷地に流出し被害を与えた。溪岸が著しく浸食され不安定土砂が多量に堆積しており、今後の豪雨のたびにキャンプ場等に土砂被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、当該事業により堆積土砂の流出抑制及び浸食の防止をし、下流のキャンプ場等の保全を図るため計画したものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 溪間工 4基 ・ 主な保全対象 住宅 4戸、オートキャンプ場 ・ 総事業費 70,000千円 		
費用対効果分析	総便益（B）	82,243千円	
	総費用（C）	61,540千円	
	分析結果（B/C）	1.34	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 流出土砂が溪床内に不安定な状態で多量に堆積しており、今後の豪雨等の際に下流の保全対象へ被害を与える恐れがあることから当事業を実施する必要性が認められる。 ・ 効率性 事業の計画については、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法を検討しており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。 ・ 有効性 当事業の実施により、不安定土砂の移動防止を図ることが出来ることから有効性が認められる。 		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成30年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	トマムスキー場 （とむすきーじょう） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は勇払郡占冠村北東部に位置し、平成28年8月の台風10号による集中豪雨により、トマムスキー場内国有林から下流の村有林を含み山腹崩壊が発生した。山腹崩壊により発生した土砂、流木は下流村有林、星野リゾート・トマム社有林に流出した。</p> <p>山腹面には依然として倒木を含む不安定土砂が堆積している状況にあり、このまま放置すると、今後の降雨等により、山腹崩壊の拡大、不安定土砂の流出によりスキー場施設へ被害を及ぼす恐れがあることから、当該事業により山腹崩壊地を安定化させることにより下流の保全を図るために計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 1.90 ha ・主な保全対象 スキー場施設、私道 600m ・総事業費 205,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	216,210千円	
	総費用（C）	189,728千円	
	分析結果（B/C）	1.14	
評価結果	<p>・必要性 今後の降雨等によって、山腹崩壊地の拡大、及び山腹崩壊地内に堆積する不安定土砂の流出が発生し、スキー場施設へ被害を及ぼす恐れがあり、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策工の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的、かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから、効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、山腹斜面の安定が図られ、スキー場を保全することができることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成30年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	阿部の沢 （あべのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は勇払郡占冠村北東部に位置し、平成28年8月の台風10号による集中豪雨により、阿部の沢にて、溪岸崩壊が発生し、下流へ土砂、流木を流出した。発生した土砂は下流の村道等へ流出し、村道を通行止とし、村道奥の民家が孤立状態となった。</p> <p>溪床には依然として倒木を含む不安定土砂が堆積している状況にあり、このまま放置すると、今後の降雨等により、溪岸崩壊の拡大、不安定土砂の流出により、再度、村道へ被害を及ぼす恐れがあることから、当該事業により溪床を安定化させることにより下流の保全を図るために計画したものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 溪間工 2基 ・ 主な保全対象 村道 500m ・ 総事業費 75,000千円 		
費用対効果分析	総 便 益（B）	107,164千円	
	総 費 用（C）	69,530千円	
	分析結果（B／C）	1.54	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 今後の降雨等によって、溪岸崩壊地の拡大、及び溪床内に堆積する不安定土砂の流出が発生し、再度、村道へ被害を及ぼす恐れがあり、当該事業を実施する必要性が認められる。 ・ 効率性 対策工の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的、かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから、効率性が認められる。 ・ 有効性 当該事業の実施により、溪岸の安定が図られ、溪床を保全することができることから、事業の有効性が認められる。 		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	中ノ沢 （なかのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は遠軽町東部に位置し、急峻な斜面と脆弱な表層であり経年の降雨、融雪等により表層面が板状に崩壊し山腹中腹部に不安定土砂が堆積している。今後の降雨による土砂の移動、浸食による荒廃の進行及び斜面崩壊の発生による崩壊地の拡大、不安定土砂の流出により森林被害を拡大させ保安林機能の低下が懸念される。</p> <p>このため、当該事業により山腹斜面を復旧し保安林機能の高度発揮を図り、下流民生の保全に努めるため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.12ha ・主な保全対象 道道 100m ・総事業費 30,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	65,242千円	
	総費用（C）	28,845千円	
	分析結果（B/C）	2.26	
評価結果	<p>・必要性 山腹崩壊により発生した崩壊土砂は依然として山腹面に倒木を含む不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により不安定土砂の流出や崩壊地の拡大の恐れがあることから、山地災害防止、土砂流出防止の観点から見て、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土砂流出の抑制が図られ、下流の人家・道々を保全することができることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成30年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	日吉 （ひよし） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、平成25年9月、上部の山腹斜面から転石が落下し走行中の車両に被害が発生した箇所である。 山腹斜面には不安定な岩体や剥離した岩石が確認されており今後の異常気象等により再移動等が誘発される危険性が高く、再度被害を与える可能性が高いことから、直下の道道等の保全を図るため計画した。</p> <p>・主な事業内容 山腹工（ロープ伏工密着式） 0.22ha ・主な保全対象 道道 300m、農地 5.60ha ・総事業費 100,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	211,764千円	
	総費用（C）	96,150千円	
	分析結果（B/C）	2.20	
評価結果	<p>・必要性 今後の、異常気象及び動物の移動等により、山腹に突起及び剥離した状態の岩体や岩石が落石し、直下の道道等に被害を及ぼすおそれがあることから、当事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画に当たっては、最小の構造物で最大の効果が得られるよう現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、岩体等の落下、不安定土砂の流出等が防止され、直下の道道はもとより、下流域の保全が図られることから、有効性は認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	幌内 （ほろない） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、平成28年8月20日（24時間雨量101mm（常呂））の台風の影響により林地崩壊が発生し、倒木や崩壊土砂とともに林道が通行不能となった箇所である。</p> <p>山腹斜面には依然として不安定土砂等が堆積している状況であり、今後の異常気象等により崩壊地の拡大及び不安定土砂の流出により林道施設はもとより下流域の農地等へ被害を及ぼすおそれがある。</p> <p>このため、当該事業により崩壊地の拡大及び土砂流出を抑制し、下流域の保全を図るため計画した。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.24ha ・主な保全対象 橋りょう（市道）1基、林道 100m、ふ化場 1棟 ・総事業費 65,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	577,352千円	
	総費用（C）	59,216千円	
	分析結果（B/C）	9.75	
評価結果	<p>・必要性 山腹崩壊により発生した崩壊土砂は、依然として山腹面に倒木を含む不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により不安定土砂の流出や崩壊地の拡大のおそれがあることから、山地災害防止、土砂流出防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画に当たっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、不安定土砂の流出等が防止され、直下の林道はもとより、下流域の保全が図られることから、有効性は認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成33年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	置戸 （おけど） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、平成28年8月17日（24時間雨量145mm（置戸常元））の台風の影響により林地崩壊が発生し、倒木とともに崩壊土砂の一部が道道へ流出した箇所である。</p> <p>山腹斜面には依然として不安定土砂等が堆積している状況であり、今後の異常気象等により崩壊地の拡大及び不安定土砂の流出により林道施設はもとより下流域の道道等へ被害を及ぼすおそれがある、</p> <p>このため、当該事業により崩壊地の拡大及び土砂流出を抑制し、下流域の保全を図るため計画した。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 1.01ha ・主な保全対象 道道 200m ・総事業費 126,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	128,149千円	
	総費用（C）	116,721千円	
	分析結果（B/C）	1,10	
評価結果	<p>・必要性 山腹崩壊により発生した崩壊土砂は、依然として山腹面に倒木を含む不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により不安定土砂の流出や崩壊地の拡大のおそれがあることから、山地災害防止、土砂流出防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画に当たっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、不安定土砂の流出等が防止され、直下の林道はもとより、下流域の保全が図られることから、有効性は認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ウトロ港東 （うとろこうひがし） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は斜里町北東部に位置し、平成16年度に落石防止柵を設置した隣接斜面より土砂が崩落し民地（漁具置き場）に被害を与えた。 上部の法面は脆弱な基岩のうえに崖錐堆積物が不安定な状況で堆積しており、今後の豪雨等で更なる崩落の発生が懸念される。 斜面直下には魚網等の漁具置き場、その先には国道334号が通過しており、早急な対策を図り、被害の防止を図るため計画をしたものである。</p> <p>・主な事業内容 落石防止壁工 7.8m、水路工 83.8m ・主な保全対象 漁具置き場 1箇所、国道 0.1km ・総事業費 20,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	192,626千円	
	総費用（C）	19,230千円	
	分析結果（B/C）	10.02	
評価結果	<p>・必要性 山腹崩壊により発生した崩壊土砂は、依然として山腹面に不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により不安定土砂の流出や崩壊地の拡大の恐れがあることから、山地災害の防止、土砂流出防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法を検討し、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土砂流出の抑制が図られ、直下の漁具置き場や国道を保全することができることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成30年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	大昭 （たいしょう） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は津別町南部に位置し、平成28年月の豪雨（69mm/日）により新たに山腹崩壊が発生し崩壊土砂が下流の畑へ流出する被害を与えた。 流出した土砂は応急的に撤去されたが、山腹斜面には依然として不安定土砂が堆積している状況であり、今後の降雨により、崩壊地の拡大及び不安定土砂の流出により畑へ再度被害を及ぼす恐れがある。 このため、当該事業により崩壊地の拡大及び土砂流出を抑制し、民地等の保全を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.11ha、土留工 30.0m ・主な保全対象 農地 1.44ha、林道 100m ・総事業費 49,500千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	122,518千円	
	総費用（C）	63,498千円	
	分析結果（B/C）	1.98	
評価結果	<p>・必要性 山腹崩壊により発生した崩壊土砂は、依然として山腹面に不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により不安定土砂の流出や崩壊地の拡大の恐れがあることから、山地災害の防止、土砂流出防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法を検討し、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土砂流出の抑制が図られ、畑・林道を保全することができることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成30年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	新縫別 （しんぬいべつ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 根釧西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>平成28年8月21日に上陸した台風11号の影響により強い雨が降り続き、白糠町では24時間雨量117.0mmを観測した。 この豪雨により、山腹斜面の崩壊が発生し、直下の農地に大量の土砂や倒木が流出し被害を与えた。 この山腹斜面内には大量の土砂や倒木が不安定な状況で堆積しており、今後の降雨等により崩壊の拡大や土砂の再移動が発生し、再び農地に流出しさらには町道に被害を及ぼす恐れがあり、崩壊地の拡大及び土砂流出防止対策を講じ、山地災害の防止を図るため計画する。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.48ha ・主な保全対象 農地 10ha、町道 300m、民家 1戸、農家施設 1棟 ・総事業費 95,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	90,400千円	
	総費用（C）	88,022千円	
	分析結果（B/C）	1.03	
評価結果	<p>・必要性 今後の降雨等により崩壊地の拡大や不安定土砂の流出の恐れがあることから、山地災害防止、土砂流出の防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により土砂流出の抑止が図られ、民家等の保全及び保安林機能の維持・増進が図られることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成32年度（4年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	富士見 （ふじみ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 根釧西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>平成25年に釧路市阿寒町2003林班で地すべりが発生し、中ノ沢に土砂、立木が流出し一時閉塞した。また、平成27年9月、平成28年8月～9月にかけての豪雨により下流の民有林へ土砂が流出した。</p> <p>現在の地すべりは小康状態であるが、今後の降雨等により土砂の再移動が発生し、堆積土砂等が流出し、下流の民家や道道などに甚大な被害を及ぼす恐れがあり、土砂流出防止対策を講じ、民生の保全を図るため計画する。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 3基、副ダム 1基 ・主な保全対象 民家 21戸、道道 400m、町道 500m ・総事業費 220,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	652,474千円	
	総費用（C）	205,064千円	
	分析結果（B/C）	3.18	
評価結果	<p>・必要性 今後の降雨等により不安定土砂の流出、地すべりの再滑動の恐れがあることから、山地災害防止、土砂流出の防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により土砂流出の抑止が図られ、道道等の保全及び保安林機能の増進が図られることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	瀬石 （せせき） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 根釧東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、羅臼町瀬石地区の人家及び観光地の上流に位置しており、平成28年9月の豪雨により山腹崩壊が発生し、下流の道路及び人家に被害を与えた。今後も崩壊が拡大する可能性が高い状況であるため、当該事業により山腹斜面崩壊を防止し、下流域の保全を図るため計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.25ha ・主な保全対象 道道 100m、人家（農漁家） 4戸 ・総事業費 70,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	118,163千円	
	総費用（C）	66,211千円	
	分析結果（B/C）	1.78	
評価結果	<p>・必要性 斜面崩壊により土砂が流出する恐れがあることから、下流域の保全等の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、森林への復旧が図られ、土砂流出防備機能が維持、向上されることから有効性が認められている。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	相泊 （あいどまり） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 根釧東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、羅臼町相泊地区の人家近辺に位置しており、平成28年9月の豪雨により山腹崩壊が発生し、今後も崩壊が拡大する可能性が高い状況にある。当該事業により山腹斜面崩壊を防止し、下流域の保全を図るため計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.15ha ・主な保全対象 道道 100m、人家 4戸 ・総事業費 50,000千円</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	112,320千円	
	総 費 用（C）	45,703千円	
	分析結果（B/C）	2.46	
評価結果	<p>・必要性 斜面崩壊により土砂が流出する恐れがあることから、下流域の保全等の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、森林への復旧が図られ、土砂流出防備機能が維持、向上されることから有効性が認められている。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	26点沢 （にじゅうろくてんざわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は本別町市街地の東側に位置し、道道本別本別停車場線沿いに農地が広がっている本別川沿いに位置する。平成28年8月の台風により山腹崩壊及び溪岸浸食に伴う多量の土砂と流木が農地に流出し被害をあたえた。</p> <p>現在も溪流内に多量の不安定土砂が堆積していることから、今後の豪雨により再び土砂等が農地に流出するおそれがある。</p> <p>既設のダム2基は満砂であること、溪流内には不安定土砂が存在すること等から、再度の土砂流出を防ぎ、農家の生活を確保することを目的に溪間工2基を計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 2基 ・主な保全対象 民家 1戸、農家 1戸、農地 1.20ha、道道 100m ・総事業費 73,500千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	75,409千円	
	総費用（C）	66,663千円	
	分析結果（B/C）	1.13	
評価結果	<p>・必要性 不安定土砂が多量に存在し、今後の豪雨により農地に流出するおそれがあることから、山地災害防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土砂流出の抑制が図られ、道道や農地を保全し民生の安定をはかることが出来ることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成30年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	会館の沢 （かいかんのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は本別町市街地から道道本別本別停車場線を東に約3kmの本別川支流に位置する。当地区の上流部は小規模な地すべりが多数見受けられ豪雨の度に土砂が下流に流出している。溪床内は不安定土砂が多量に存在し、溪岸の浸食も著しいことから、今後の豪雨により土石流が発生し、直下の道道及び町道が通行止めになるおそれがある。道道奥には7戸の農家があり、唯一の生活道路が通行止めになれば孤立することとなる。また、町道奥には本別町の浄水場があり、水道事業に支障をきたすこととなる。</p> <p>したがって、直下の生活道路及びライフラインを守ることを目的に溪間工を施工するものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 溪間工 2基 ・ 主な保全対象 道道 50m、町道 50m、林道 100m ・ 総事業費 50,000千円 		
費用対効果分析	総便益（B）	68,514千円	
	総費用（C）	47,153千円	
	分析結果（B/C）	1.45	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 上流部の荒廢地に起因する不安定土砂及び溪岸浸食が存在し、今後の豪雨により土石流が発生する恐れがあることから、山地災害防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。 ・ 効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。 ・ 有効性 当該事業の実施により、不安定土砂の固定及び山脚の固定が図られ、道道及び町道を保全することで、農家の生活やライフラインを確保することが出来ることから、事業の有効性が認められる。 		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成30年度（2年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	佐藤の沢 （さとうのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は本別町市街地の東側に位置し、道道本別本別停車場線沿いに農地が広がっている本別川沿いに位置する。平成28年8月の台風により山腹崩壊に伴う多量の土砂と流木が農地に流出し被害をあたえた。現在は土砂と流木を撤去したが、今後の豪雨により再び土砂等が農地に流出するおそれがある。</p> <p>既設のダム4基は満砂であること、溪流内には不安定土砂が存在すること等から、再度の土砂流出を防ぎ、農家の生活を確保することを目的に溪間工2基を計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 1基 ・主な保全対象 農地 1.80ha ・総事業費 23,500千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	27,145千円	
	総費用（C）	21,857千円	
	分析結果（B/C）	1.24	
評価結果	<p>・必要性 不安定土砂が多量に存在し、今後の豪雨により農地に流出するおそれがあることから、山地災害防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土砂流出の抑制が図られ、農地を保全し農家の生活を守ることが出来ることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	浄水場 （じょうすいじょう） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は本別町市街地の東側に位置し、道道本別本別停車場線沿いに農地が広がっている本別川沿いに位置する。平成28年8月の台風により山腹崩壊が発生し土砂と流木が農地に流出し被害をあたえた。現在は土砂と流木を撤去したが、今後の豪雨により崩壊が拡大し土砂等が農地に流出するおそれがある。</p> <p>山腹には不安定土砂が存在することから、再度の土砂流出と崩壊地の拡大を防ぎ、農家の生活を確保することを目的に山腹工を計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.40ha ・主な保全対象 農家 1戸、農地 1.2ha、町道 200m ・総事業費 54,500千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	53,153千円	
	総費用（C）	49,489千円	
	分析結果（B/C）	1.07	
評価結果	<p>・必要性 今後の豪雨により崩壊地が拡大し農地に流出するおそれがあることから、山地災害防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土砂流出の抑制が図られ、農地を保全し農家の生活を守ることが出来ることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	齊の沢 （さいのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は本別町市街地の東側に位置し、道道本別本別停車場線沿いに農地が広がっている本別川沿いに位置する。平成28年8月の台風により山腹崩壊に伴う多量の土砂と流木が農地に流出し被害をあたえた。現在は土砂と流木を撤去したが、今後の豪雨により再び土砂等が農地に流出するおそれがある。</p> <p>既設のダムはなく、溪流内には不安定土砂が存在することから、再度の土砂流出を防ぎ、農家の生活を確保することを目的に溪間工2基を計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 2基 ・主な保全対象 農地 0.40ha、道道 100m ・総事業費 54,500千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	63,360千円	
	総費用（C）	49,845千円	
	分析結果（B/C）	1.27	
評価結果	<p>・必要性 不安定土砂が多量に存在し、今後の豪雨により農地に流出するおそれがあることから、山地災害防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土砂流出の抑制が図られ、農地を保全し農家の生活を守ることが出来ることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	東本別 （ひがしほんべつ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は本別町市街地の東側に位置し、道道本別本別停車場線沿いに農地が広がっている本別川沿いに位置する。平成28年8月の台風により山腹崩壊が発生し土砂と流木が農地に流出し被害をあたえた。現在は土砂と流木を撤去したが、今後の豪雨により崩壊が拡大し土砂等が農地に流出するおそれがある。</p> <p>山腹には不安定土砂が存在することから、再度の土砂流出と崩壊地の拡大を防ぎ、農家の生活を確保することを目的に山腹工を計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.30ha ・主な保全対象 民家 1戸、道道 130m、農地 0.2ha ・総事業費 54,500千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	93,259千円	
	総費用（C）	49,845千円	
	分析結果（B/C）	1.87	
評価結果	<p>・必要性 今後の豪雨により崩壊地が拡大し農地に流出するおそれがあることから、山地災害防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土砂流出の抑制が図られ、農地を保全し農家の生活を守ることが出来ることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成33年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	川見の沢 （かわみのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は広尾町北西部の豊似川沿いに位置し、以前より土砂の流出が見られた箇所である。平成28年8月30日に発生した台風10号による豪雨(145mm/日)を起因として多量の不安定土砂の堆積が確認されるとともに、既設治山ダムの袖部、水叩きの埋戻土が流出し、堤体が露出している状況にあり、今後の降雨等により既設治山ダムの倒壊及び堆積土砂が流出し、下流の国道236号線に被害を与える恐れがあることから、当該事業により不安定土砂流出を抑制し、下方に位置する国道の保全を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 2基、副ダム 3基 ・主な保全対象 国道 80m ・総事業費 100,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	151,373千円	
	総費用（C）	96,175千円	
	分析結果（B/C）	1.57	
評価結果	<p>・必要性 山腹崩壊等により発生した崩壊土砂は、依然として山腹面や溪床内に不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により不安定土砂の流出や崩壊地の拡大の恐れがあることから、山地災害防止、土砂流出防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土砂流出の抑制が図られ、国道を保全することが出来ることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成32年度（4年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	ヤンベツ川 （やんべつがわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署東大雪支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、河東郡上士幌町南西部に位置し、ヤンベツ川を市町村界として河東郡鹿追町と接している。</p> <p>平成28年8月の台風第10号による大雨等によりヤンベツ川が増水及び蛇行したため、左岸側（上士幌町）に施工されていた護岸工を破壊し、更に溪岸崩壊を発生させ、右岸側（鹿追町）にある鹿追町所管の孵化場施設に被害を与えた。</p> <p>ヤンベツ川左岸側に発生した溪岸崩壊をそのまま放置した場合、降雨等の度に右岸側の孵化場施設に土砂を流入させ、下流直下にある然別湖に土砂流出や水質汚濁等の被害を与える恐れがある。</p> <p>このため、護岸工を施工して山脚の固定や崩壊土砂の流出を抑止し、下流域の保全を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 護岸工 100m ・主な保全対象 孵化場施設 1棟、温泉施設 1棟、道道 750m ・総事業費 110,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	494,191千円	
	総費用（C）	98,202千円	
	分析結果（B/C）	5.03	
評価結果	<p>・必要性 ヤンベツ川左岸側に発生した溪岸崩壊を放置すれば、大規模な山腹崩壊の発生や下流域に土砂流出等の被害を与える可能性が高く、山地災害防止・土砂流出防止の観点から、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画に当たっては、現地の実態に応じた最も効果的、かつ、効率的な工種・工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、山脚の固定や崩壊土砂流出の抑止が図られ、対岸の孵化場施設や下流域の然別湖を保全することができることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成35年度（7年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	市の沢 （いちのさわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 十勝西部森林管理署東大雪支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、上川郡新得町北部のトムラウシ地域に位置している。 平成28年8月の台風第7号・第11号・第9号・第10号及び前線による大雨等により、複数の沢で山腹斜面の崩壊や溪床内に堆積していた土砂が流出し、下流域の牧場施設等に被害を与えた。 複数の沢の溪床内には不安定土砂等が厚く堆積し、このまま放置した場合、降雨等の度に土砂が流出して下流域の牧場施設等や道々718号忠別清水線等に被害を与える恐れがある。 このため、山腹工及び溪間工を施工して、山脚の固定や不安定土砂の移動を抑止し、下流域の保全を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.38ha、溪間工 6基 ・主な保全対象 牧場施設等、道道 1,500m、林道 200m ・総事業費 255,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	2,754,257千円	
	総費用（C）	215,503千円	
	分析結果（B/C）	12.78	
評価結果	<p>・必要性 複数の沢の溪床内には、山腹斜面の崩壊や不安定土砂の移動等により土砂が厚く堆積していることから、今後の降雨等によって下流域に被害を与える可能性が高く、山地災害防止・土砂流出防止の観点から、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画に当たっては、現地の実態に応じた最も効果的、かつ、効率的な工種・工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、複数の沢の溪床内の不安定土砂移動の抑止が図られ、下流域の牧場施設等や道々及び林道を保全することができることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	室蘭 （むろらん） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 後志森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は観光地である登別温泉街の上流へ約0.5kmに位置する。岩塊が露呈した急傾斜地の国有林であり、直下には登別市の市道と上水道施設（導水管）が埋設されている。</p> <p>平成28年の台風等により崩壊し町道へ土砂が流出し被害を与えた。今後の豪雨等により崩壊地が拡大し更なる被害を与えるおそれがあることから、山腹斜面を復旧し、山地災害の未然の防止を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 1.40ha ・主な保全対象 市道 380m、上水道施設 380m ・総事業費 130,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	353,712千円	
	総費用（C）	118,603千円	
	分析結果（B/C）	2.98	
評価結果	<p>・必要性 岩塊が露呈した不安定な山腹斜面をそのまま放置すれば、豪雨等の自然環境の急激な変化があった場合、直下の施設や住民生活、観光事業に被害を与えるおそれがあることから、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、危険因子である岩塊や山腹斜面に対し、その固定を図るための最も効果的かつ効率的な工種・工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、落石や土砂崩壊の抑制と斜面の固定が図られ山腹面が安定し、下流域の保全等が図られることから事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	登別温泉 （のぼりべつおんせん） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 後志森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、登別温泉街の市街地にある宿泊施設裏に位置する。山腹斜面は、近年の豪雨による森林の傾倒や表層の剥離崩壊が進行しており、平成28年8月に接近上陸した4つの台風による記録的な豪雨の影響により、9月15日、0.2haの山腹斜面が崩落した。この土砂災害による人的被害はなかったが、崩壊地の直下を横断する二級河川クシリサハヅ川に多量の崩壊土砂が流入し、対岸に立地するホテルの敷地に多量の立木が倒伏・侵入する被害を与えた。崩壊地内には、依然として多量の倒木と崩壊土砂が不安定な状態で堆積していることから、今後の降雨により山腹崩壊が拡大するとともに多量の土砂が流出し河川を閉塞させるだけでなく、対岸のホテルに土砂が流入する等の多大な被害を与える危険性が高いことから、山腹崩壊・土砂流出の防止のため当事業を計画したものである。</p> <p>なお、当該箇所は国立公園内であり景観に配慮しなければならない制限が課せられているため、樹木の伐採を行わない山腹工を計画し、防災機能の向上と、自然景観及び森林生態系の保全を図り、地域住民並びに全国から訪れる観光客の安全・安心を確保する必要がある。</p> <p>また、当該山腹斜面は、急傾斜地崩壊危険地区に指定されており、土砂災害の危険性が極めて高い斜面である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 山腹工 0.51ha ・ 主な保全対象 ホテル 4棟、交番、寺、民家 4戸、道道 400m、市道 200m ・ 総事業費 200,000千円 		
費用対効果分析	総 便 益（B）	2,238,239千円	
	総 費 用（C）	240,375千円	
	分析結果（B/C）	9.31	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 山腹崩壊により発生した土砂は、依然として不安定な状態で山腹面に堆積しており、今後の降雨等により土砂の流出や崩壊地の拡大の恐れがあることから、山地災害防止、土砂流出防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。 ・ 効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。 ・ 有効性 当該事業の実施により、山腹崩壊の発生、土砂の流出を未然に防ぐことができ、直下のホテルを保全することが出来ることから事業の有効性が認められる。 		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	島牧海岸（栄磯） （しままきかいがん（さかえいそ）） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 後志森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、島牧村栄磯地区の国道・民家が日本海と急傾斜の山腹面に挟まれた地域に位置する。民家に隣接する雪崩発生箇所であり、平成27年にも雪崩による家屋への被害が発生し、斜面侵食及び樹木等への被害も拡大している状況にある。</p> <p>今後も直下の民家に被害を及ぼす危険性が極めて高いことから、当該事業により山腹斜面の雪崩発生を防止し、国道・民家の保全を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工（なだれ柵） 0.10ha ・主な保全対象 国道 20m、民家 1戸 ・総事業費 20,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	96,847千円	
	総費用（C）	19,230千円	
	分析結果（B/C）	5.04	
評価結果	<p>・必要性 国道・民家が日本海と急傾斜の山腹面に挟まれた地域に位置しており、今後も雪崩の発生の危険性が極めて高いことから、直下の民家・国道の保全のため当事業の必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、雪崩の発生を未然に防ぐことができ、直下の民家・国道を保全することが出来ることから事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成32年度（4年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	奥尻島（烏頭川） （おくしりとう（ぶしがわ）） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 檜山森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は急崖で連続した崩壊箇所が多数見られ、溪流内には崩壊した山腹斜面から流下した不安定土砂が堆積している。 今後の降雨等によって、林道及び下流の人家、集落等に崩落した土砂が流出して被害を及ぼす恐れがあることから、不安定土砂の発生源である山腹斜面を復旧し、山地災害の未然防止を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.20ha ・主な保全対象 人家 5戸、道立高等学校 1校、道道 550m、町道 800m ・総事業費 90,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	174,301千円	
	総費用（C）	80,586千円	
	分析結果（B/C）	2.16	
評価結果	<p>・必要性 溪岸山腹斜面の崩壊箇所は浸食が進んでおり、崩壊面積を拡大させている状況にある。溪床内には斜面から流下した土砂が堆積しており、放置すればさらに堆積した不安定土砂が下流域へ流出する恐れがあることから、山地災害の防止、水源かん養等の観点からみて、当該事業の必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策工の計画にあたっては、適切な工種の選定及び治山施設を配置しており、現地の実態に応じた効果的かつ効率的な工種、工法が検討されていることから、費用以上の効果が期待できる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、下流域の保全等が図られることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	兜野 （かぶとの） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 渡島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該流域は、尻別利別川下流に位置する左岸支流で、平成28年8月30日に通過した台風10号の影響による断続的な降雨により、山腹斜面が崩壊し町道に土砂及び倒木が流出した。</p> <p>流出した土砂等は撤去済みだが、崩壊地斜面上部の地盤は不安定になっており、今後の降雨等により崩壊地の拡大及び民家・農地・町道等へ被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>民地との境界が斜面中段にあり国有林のみでの山腹工は困難なことから、崩壊地上部の斜面を固定し崩壊地の拡大及び土砂流出を防ぎ、下流の民地等の保全を図るため本事業を計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 山腹工 0.40ha ・主な保全対象 農家 1戸、農地 6.00ha、町道 400m ・総事業費 65,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	68,205千円	
	総費用（C）	59,216千円	
	分析結果（B/C）	1.15	
評価結果	<p>・必要性 今後の豪雨により崩壊地が拡大し河川や農地に流出する恐れがあることから、山地災害防止及び土砂流出防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土砂流出の抑制が図られ、農地・町道等を保全することができることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	復旧治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	森姫川 （もりひめかわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 渡島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該流域は、森町尾白内川上流に位置する左岸支流で、平成25年8月16日から19日にかけての大雨によって新たな崩壊地が流域源頭部に発生し、崩壊土砂が溪岸侵食を伴い流出。一部の土砂は林道を越流し本流に達した。</p> <p>崩壊地は非常に不安定であり、また、溪床内には大量の土砂が堆積しており、今後の降雨等により、崩壊地の拡大及び不安定土砂の流出により民家・町道・頭首工等への被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、当該事業により崩壊地の拡大及び土砂流出を抑制し、下流の民地等の保全を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 3基 ・主な保全対象 民家 5戸、町道 300m ・総事業費 45,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	107,552千円	
	総費用（C）	43,268千円	
	分析結果（B/C）	2.49	
評価結果	<p>・必要性 山腹崩壊の発生により、山腹面及び溪流内に不安定土砂が堆積しており、今後の降雨等により不安定土砂の流出や崩壊地の拡大の恐れがあることから、山地災害防止、土砂流出防止の観点からみて、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土砂流出の抑制が図られ、民家・町道等を保全することができることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	予防治山（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	朱鞠内小学校裏の沢 <small>（しゅまりないしょうがっこうらのさわ）</small> （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署 北空知支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は幌加内町北部にある朱鞠内集落の小学校裏に位置しており、山地災害危険（崩壊土砂流出）地区に指定されている。</p> <p>近年の集中豪雨等により、安定していた溪流が徐々に浸食され、荒廃の初期段階と考えられ（が確認でき）今後の豪雨等により、溪流浸食が進行することで林地崩壊し土砂流出することによる直下の小学校等の保全対象への被害を与える恐れがある。</p> <p>このため、当該事業により溪流浸食を抑制することで山脚の固定を図るため計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 溪間工 2基 ・主な保全対象 小学校 1棟、国道 100m、町道 100m ・総事業費 45,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	192,130千円	
	総費用（C）	41,080千円	
	分析結果（B/C）	4.68	
評価結果	<p>・必要性 今後の降雨等により不安定土砂の流出や崩壊地の拡大の恐れがあることから、山地災害防止、土砂流出防止の観点からみて、実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な工種、工法が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、土砂流出の抑制が図られ、小学校・集落・国道を保全することが出来ることから、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	防災林造成（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成36年度（8年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	落石 （おちいし） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 根釧東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、根室市落石地区に位置し、海沿いに林帯を形成している防霧保安林であり、大型低気圧等の影響により大面積で倒木が発生しているところである。今後更に倒木被害は拡大する恐れが懸念され、保安林機能に支障をきたすの恐れがあることから、早期に林地への復旧を図るため、植栽工を行うものである。</p> <p>・主な事業内容 植栽工 10.00ha、防風工、下刈10.00ha ・総事業費 117,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	400,768千円	
	総費用（C）	103,168千円	
	分析結果（B/C）	3.88	
評価結果	<p>・必要性 放置が続けば、更に倒木被害が拡大し、保安林機能が低下することから、早期に事業着手する必要がある。</p> <p>・効率性 当事業の計画に当たっては、現地実態に応じた最も効果的且つ効率的な作業種が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められている。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、林帯が回復し、林地の安定が図られ保安林機能の維持・向上が期待出来るため、有効性は認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	芦別 （あしべつ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、芦別市南東部に位置し、植栽木が侵入してきた広葉樹に被圧されている。また、植栽木が過密化しやつる類の繁茂により生育が著しく阻害されている状態である。</p> <p>この状態を放置すると植栽木の枯死などによる森林の機能低下や過密になると下層植生の生育を妨げ、降雨時に表土等の流出の恐れがあるため、早期に林内の健全化を図り、森林の機能を効果的に発揮させるため、当事業を計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 除伐 77.69ha、つる切 111.85ha ・総事業費 13,600千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	296,821千円	
	総費用（C）	13,076千円	
	分析結果（B/C）	22.70	
評価結果	<p>・必要性 このまま放置すると、人工林がさらに過密状態するなど、立木や下層植生の生育に悪影響を及ぼし、保安林機能が低下することから、事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 当事業の計画にあたっては、現地実態に応じた最も効果的かつ効率的な作業種で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、林内照度が上がるなど立木や下層植生の生育が回復し、保安林機能の維持、向上が期待できることから有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	岩見沢 （いわみざわ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、岩見沢市北部、南部、東部に位置し、人工林が過密であることから生育が著しく阻害されている状態である。 今後、この人工林がさらに過密になると下層植生の生育を妨げ、降雨時に表土等の流出の恐れがあるため、早期に林内の照度を上げ下層植生の健全な生育を効果的に発揮させるため、当事業を計画したものである。</p> <p>・主な事業内容 除伐 34.47ha つる切 52.32ha ・総事業費 20,000千円</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	210,933千円	
	総 費 用（C）	19,230千円	
	分析結果（B/C）	10.97	
評価結果	<p>・必要性 このまま放置すると、人工林がさらに過密状態となり、立木や下層植生の生育に悪影響を及ぼし、保安林機能が低下することから、事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 当事業の計画にあたっては、現地実態に応じた最も効果的かつ効率的な作業種で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、林内照度が上がり立木や下層植生の生育が回復し、保安林機能の維持、向上が期待できることから有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成35年度（7年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	新太刀別 （にたちべつ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 空知森林管理署 北空知支署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は沼田町北部に位置し、溪流沿いに山腹崩壊箇所が散在しているほか溪流の荒廃があり不安定土砂の堆積がみられる。また、これらの稜線には広範囲にわたる疎林部があり笹が分布し森林の生育が困難な地域となっている。下流には水道水・農業用水を目的とした沼田ダムがあることから、疎林部を複層林へ誘導し、水源かん養機能の向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 下刈 1.72ha ・総事業費 2,100千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	3,647千円	
	総費用（C）	1,800千円	
	分析結果（B/C）	2.03	
評価結果	<p>・必要性 このまま放置すると植栽木が枯死し保安林機能が低下する恐れがあることから、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 当事業の計画にあたっては、現地実態に応じた最も効果的かつ効率的な工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、疎林部の解消が図られ、国土保全機能及び水源かん養機能が維持・向上されることから有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	日高南部 （ひだかなんぶ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 日高南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該計画地は、新冠郡新冠町の新冠川流域及び日高郡新ひだか町の静内川流域に位置する人工林及び育成天然林である。</p> <p>当該箇所では、侵入木や蔓茎類により造林木が被圧された林分ならびに造林木等の過密化による成長不良と下層植生の消滅等、その生育が著しく阻害された状況にあって、現状を放置することは造林木の枯死や表土の流出等保安林機能の低下につながる恐れがあることから、保安林機能の適切な維持管理を目的として保安林整備事業を計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 本数調整伐 28.94ha、除伐 4.90ha、つる切 80.09ha ・総事業費 17,900千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	209,421千円	
	総費用（C）	28,845千円	
	分析結果（B/C）	7.26	
評価結果	<p>・必要性 現状を放置すれば林相が過密状態となり、造林木や下層植生に多大な影響を及ぼし、水源かん養等の保安林機能が低下することから、早期に当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 当該事業の計画にあたっては、現地の実態に応じた最も効率的かつ効果的な作業種で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性が認められる。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、林内照度が上がり、造林木の健全な成長の促進や下層植生等の生育が回復し、林地の安定が図られ保安林機能の維持・向上が期待できるため、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成39年度（11年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	士別・名寄 （しべつ・なよろ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 上川北部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は風連地区に1箇所（延長3km幅約65m面積20ha）、上士別地区に6箇所（延長10km幅約68m面積約68ha）あり、明治から大正の開拓期にかけて農作物を保護することを目的として伐採せずに残した森林の一部を大正11年に保安林として指定された。</p> <p>この間、風雪、強風等の気象条件の緩和による農作物への生産性向上に寄与を果たすとともに、林内の動植物への生育環境を育てる場となっていることから、防風林の役割、効果が地域住民に認識されている。</p> <p>しかし、一方では樹木の老齢化により倒木等が多く見られ、保安林機能の低下が懸念されることから機能の維持・強化及び今後の施業についての対策が喫緊の課題であり、次世代の森林造成していく施業方法（伐採幅・本数調整）を検討し、防風保安林の機能を高度に発揮させるため計画するものである。</p> <p>・主な事業内容 植栽（伐採・保育等含む） 99.78ha ・総事業費 115,000千円</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	204,832千円	
	総 費 用（C）	92,413千円	
	分析結果（B/C）	2.22	
評価結果	<p>・必要性 放置することにより、更に樹木の老齢化が進み、風雪等により風倒木が増えることで、水源のかん養等の保安林機能が低下し、農地・道道等に被害を及ぼすおそれがあることから、当該事業を実施する必要性が認められる。</p> <p>・効率性 対策の計画に当たっては、現地の実態に応じた最も効果的かつ効率的な作業種が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p> <p>・有効性 当該調査の実施により、次世代の森林の造成・防風効果の強化を図られ防風保安林の機能を高度に発揮することが期待できるため、有効性は認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	猿払 （さるふつ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は猿払村に位置しており、オホーツク海に面した漁業・酪農が盛んな地域である。</p> <p>当地区は海岸線に近く、海側より強い季節風と潮による影響をうけ未立木地となっており、防風保安林としての機能を十分に発揮できない状況にある。保安林の背後には酪農地が広がっており、現状のまま放置をすれば、周辺地域に影響を及ぼすため、早期に林地回復を図り、保安林機能を発揮させるものである。</p> <p>・主な事業内容 植栽工 1.07ha、防風工 6,800m、保育 7.69ha ・総事業費 44,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	51,065千円	
	総費用（C）	40,883千円	
	分析結果（B/C）	1.25	
評価結果	<p>・必要性 未立木地の放置が続けば、防風保安林の機能低下により周辺地域への風害等が予想されることから、早期に事業着手する必要がある。</p> <p>・効率性 当事業の計画に当たっては、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められるものである。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、林地への早期回復を図り、防風保安林の機能維持・向上が期待できるため、有効性は認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	枝幸 （えさし） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は枝幸町から、およそ10km南に位置し、海岸線まで近く、防風保安林に指定されている。</p> <p>当地区の背後には牧草地、海岸に国道238号線が走り、治山事業による植栽工を実施してきており、植栽木を健全に生育させ保安林機能を効果的に発揮させ防風機能向上を図るものである。</p> <p>・主な事業内容 保育 22.05ha ・総事業費 6,000千円</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	64,065千円	
	総 費 用（C）	5,550千円	
	分析結果（B/C）	11.54	
評価結果	<p>・必要性 当該植栽木の生育促進を図り、保安林機能を向上させるために早期に事業着手する必要がある。</p> <p>・効率性 当事業の計画に当たっては、現地実態に応じた最も効果的かつ効率的な作業種で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、植栽木の生育促進が図られ保安林機能の維持・向上が期待できるため、有効性は認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	利尻 （りしり） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、日本最北稚内市の南西約40km、利尻島西部利尻町に位置しており、漁業と観光が盛んな地域である。</p> <p>当地区は、強い季節風の影響を受け、未立木地となっており、また人工林は過密で保安林機能の低下を招く恐れある。</p> <p>そのため、植栽及び保育作業により早期に林地造成をし、保安林機能を発揮させるものである。</p> <p>また、昭和40年代に植栽した造林地については、植栽木が過密化してきており、早期に林内照度を上げ、下層植生及び造林木の健全な生育を発揮させるため、本数調整伐を行うものである。</p> <p>・主な事業内容 植付 1.75ha、保育 12.11ha、本数調整伐 20.50ha ・総事業費 40,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	64,297千円	
	総費用（C）	37,366千円	
	分析結果（B/C）	1.72	
評価結果	<p>・必要性 最北沿岸地域ということで、風の影響が強く、放置が続けば、保安林の機能を発揮できず、周辺地域への風害等が予想されることから、目的機能を発揮させるため整備する必要がある。</p> <p>・効率性 当事業の計画に当たっては、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、林地への早期回復を図り、保安林の機能維持・向上が期待できるため整備する必要がある。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	緑 （みどり） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は北海道の最北端にある稚内市の市街地に隣接しており、稚内風景林、干害防備保安林、保健休養林、鳥獣保護区に指定され、市民の散策路など「憩いの場」として利用されている。</p> <p>地区の海岸沿いには、明治末期から大正初期にかけて何度も山火事に見舞われており、その跡地にはチシマザサの繁茂が著しく、森林帯は溪流斜面の比較的風当たりの弱い部分に残されている。恒常的に風が強く、しばし最大風速も30m/sを超えることが記録され、後継樹は生育できずその大部分は未立木地になっている。</p> <p>稚内裏山全体の未立木地の解消、失った森林の再生を図るため風衝地での森林整備も不可欠なことから、植栽及び植栽木の生育保護を図るため防風工を一体的に行うものである。</p> <p>・主な事業内容 植付 0.34ha、防風工 660m、保育 14.00ha ・総事業費 52,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	63,081千円	
	総費用（C）	49,451千円	
	分析結果（B/C）	1.28	
評価結果	<p>・必要性 過去に発生した山火事により、森林は荒廃し、笹生地化していることから、下流への良質な水資源の確保、水土保全機能・向上のためにも、本事業は必要である。</p> <p>・効率性 当事業の計画に当たっては、現地実態に応じた最も効果的かつ効率的な工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められるものである。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、未立木地化している森林の再生が図られ保安林機能の維持・向上が期待できるため、有効性は認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	礼文 （れぶん） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は日本最北端稚内市の西側50kmに位置する。利尻・礼文・サロベツ国立公園の中核である礼文島である。四方を海に囲まれているため、山頂部は強い風の影響を受け未立木地、疎林となっており、保安林としての機能を十分に発揮できない状況にある。</p> <p>水源涵養保安林の機能強化を図る観点から、早期林地造成が必要であり、植栽木の生育をはかるための森林整備を行うものである。</p> <p>・主な事業内容 植付 0.12ha、保育 19.50ha ・総事業費 19,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	83,979千円	
	総費用（C）	17,394千円	
	分析結果（B/C）	4.83	
評価結果	<p>・必要性 未立木地の放置が続けば、保安林の機能低下を招くことから、早期に事業着手する必要がある。</p> <p>・効率性 当事業の計画に当たっては、費用以上の効果が期待できることから効率性は認められるものである。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、林地への早期回復を図り、保安林機能の維持・向上が期待できるため、有効性は認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度（1年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	若佐 （わかさ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走中部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、北海道の東部、中央山岳地帯の東側の山間部に位置しており、林内では侵入木や蔓茎類により植栽木が被圧等がされ、それにより生育が著しく阻害されており、現状のまま放置することは植栽木の枯死、表土の土砂流出等、保安林機能の低下につながることから、保安林機能の適切な維持管理を目的として当該事業を計画するものである。</p> <p>・ 主な事業内容 除伐 16.58ha、作業道修理 6.4km ・ 総事業費 25,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	64,779千円	
	総費用（C）	24,038千円	
	分析結果（B/C）	2.69	
評価結果	<p>・ 必要性 水源かん養等の重要な役目を担うこの地域の森林において、このまま放置が続けば、下層植生の消滅等により土砂の流出等、保安林機能が低下することから、早期に事業に着手する必要がある。</p> <p>・ 効率性 当事業の計画にあたっては、現地実態に応じた最も効果的かつ効率的な工法で検討されており、費用以上の効果も期待できることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>・ 有効性 当事業の実施により、下層植生等の生育が回復し、林内の安定が図られ保安林機能の維持・向上が期待できるため、事業の有効性が認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成31年度（3年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	開陽 （かいよう） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 根釧東部森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該箇所は、中標津町東部に位置し、当地区奥地人工林が過密で生長が阻害されている状況である。今後、人工林がさらに過密化し下層食性の成長を妨げ、表土等流出の恐れが懸念されたため、早期に林内の照度を上げ、下層食性の健全な生育を効果的に発揮させるため本数調整伐を行うものである。</p> <p>・主な事業内容 本数調整伐 150.00ha ・総事業費 30,000千円</p>		
費用対効果分析	総 便 益（B）	312,772千円	
	総 費 用（C）	27,751千円	
	分析結果（B／C）	11.27	
評価結果	<p>・必要性 放置が続けば、更に林層が過密状態となり、植栽木や下層植生に多大な影響を及ぼし、水源かん養等の保安林機能が低下することから、早期に事業着手する必要がある。</p> <p>・効率性 当事業の計画に当たっては、現地実態に応じた最も効果的且つ効率的な作業種が検討されており、費用以上の効果も期待できることから効率性は認められている。</p> <p>・有効性 当該事業の実施により、林内照度が上がり、下層植生等の生育が回復し、林地の安定が図られ保安林機能の維持・向上が期待出来るため、有効性は認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成33年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	乙部 （おとべ） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 檜山森林管理署
事業の概要・目的	<p>当該地区は乙部町の東部に位置しており、奥地の人工林が過密であるとともに、つる類の繁茂により植栽木の成長が阻害されている状況である。このまま放置すれば、人工林がさらに過密化して下層植生の成長を妨げ、表土流出等の発生が懸念されることから、早期に林内の照度を上げ、下層植生の健全な生育を効果的に発揮させるため事業を行うものである。</p> <p>・主な事業内容 下刈 275.70ha、つる切 317.60ha、本数調整伐 74.10ha ・総事業費 150,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	1,666,050千円	
	総費用（C）	133,554千円	
	分析結果（B/C）	12.47	
評価結果	<p>・必要性 放置が続けば、更に林層が過密状態となり植栽木や下層植生に多大な影響を及ぼし、水源かん養等の保安林機能が低下することから、早期に事業着手する必要がある。</p> <p>・効率性 当事業の計画に当たっては、現地実態に応じた最も効果的かつ効率的な作業種で検討されており、費用以上の効果も期待出来ることから効率性は認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、植栽木の健全な育成が保たれるとともに、林内照度が上がり、下層植生等の生育が回復し、林地の安定が図られ保安林機能の維持・向上が期待出来るため、有効性は認められる。</p>		

事前評価個表

事業名	保安林整備（国有林）	事業計画期間	平成29年度～平成33年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	木古内 （きこない） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 檜山森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は木古内町の北西部に位置しており、当地区奥地人工林が過密であるとともに、つる類の繁茂により植栽木の成長が阻害されている状況である。このまま放置すれば、人工林がさらに過密化し下層植生の成長を妨げ、表土等流出の恐れが懸念されるため、早期に林内の照度を上げ、下層植生の健全な生育を効果的に発揮させるために行うものである。</p> <p>・主な事業内容 下刈 193.10ha、つる切 300.05ha、本数調整伐 103.35ha 歩道修理 49.00km</p> <p>・総事業費 125,000千円</p>		
費用対効果分析	総便益（B）	1,572,806千円	
	総費用（C）	111,296千円	
	分析結果（B/C）	14.13	
評価結果	<p>・必要性 放置が続けば、さらに林層が過密状態となり植栽木や下層植生に多大な影響を及ぼし、水源かん養等の保安林機能が低下することから、早期に事業着手する必要がある。</p> <p>・効率性 当事業の計画に当たっては、現地実態に応じた最も効果的かつ効率的な作業種で検討されており、費用以上の効果も期待出来ることから効率性は認められる。</p> <p>・有効性 当事業の実施により、植栽木の健全な育成が保たれるとともに、林内照度が上がり、下層植生等の生育が回復し、林地の安定が図られ保安林機能の維持・向上が期待出来るため、有効性は認められる。</p>		